

事務 事業名	コード1	3400	医療福祉・食・交流の郷づくり事業	課	農水産課			
	コード2	②	花交流事業	所属班	振興班			
			☐ 主要事業	電話番号	68-1174	内線	237	
施策 体系	基本方針	5	活力と躍動感に満ちたまちづくり	予算	会計		款	項
	施策	1	農業の振興	科目	一般会計		6	1
	施策の展開	5	交流事業の促進	根拠	旭市補助金等交付規則			
	基本事業	273	都市との交流促進	法令				

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 19 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述→	・旭市総合計画リーディングプランのひとつである「交流の郷」事業のひとつ。本事業は千葉県第2位の生産額を誇る旭市の多種多様な「花」に着目し、この様々な可能性を秘めた花を使って都市住民との交流を広げること、旭市の認知度を上げるとともに「花のまち旭市」としてのイメージアップを図る。また、花産業の活性化はもちろん、継続的な来訪及び市の商品の売り上げ向上による経済効果を狙う。 ・その他、地元生産者が都市部の消費者と交流を図ることで、消費者の求めるニーズの把握、新たな顧客の確保につなげる。 ・事業実施団体は「旭市花卉生産者協議会」、会員14人、花卉農家97戸 【業務の流れ】 (事業関係)・花の交流イベントの企画～開催、イベントでの花のPR交流活動、オフィス緑化運動、花育活動の推進 (補助金関係)・市補助金申請(4月)→各種イベントや花育活動等の推進→イベント参加者から料金の徴収→市補助金実績報告(3月)

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(25年度の実績)	単位:千円
1. 医療福祉・食・交流の郷づくり事業補助金	548
2. 花育・花産地PR推進事業補助金	0
3. 花育活動交流者数	0
4. オフィス緑化実施延べ施設数	0
【前年度比増減理由】	オフィスの緑化の増加。【歳入】地域振興基金繰入金548千円
② 延べ業務時間の内訳(25年度の実績)	単位:時間
・花育活動 2人×4h×2日=16h	・オフィスの緑化 2人×4h×2日=16h
・担当事務・準備 2人×8h×15日=240h	
・総会、定例会出席 2人×2h×10日=40h	
・その他 66h	●合計 378h

事業費	費目内訳	単位	23年度(決算)	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(計画)
1.	医療福祉・食・交流の郷づくり事業補助金	千円	1,000	459	548	1,000
	事業費計(A)	千円	1,000	459	548	1,000
	うち一般財源	千円	0	0	0	0
人件費	正規職員従事人数	人	0.25	0.25	0.19	0.19
	延べ業務時間	時間	508	508	378	378
	人件費計(B)	千円	1,930	1,930	1,436	1,436
	トータルコスト(A)+(B)	千円	2,930	2,389	1,984	2,436

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	23年度(決算)	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(計画)
	25年度実績(25年度に行った主な活動) ・イベントへの参加 ・花育活動 ・オフィスの緑化活動	ア 協議会で参加したイベント参加回数	人	5	3	4	4
目的	26年度計画(26年度に計画している主な活動) ・花育活動 ・オフィスの緑化活動 ・フラワーアレンジメント大会	イ オフィスの緑化実施延べ施設数	箇所	5	9	22	25
		ウ 花育活動交流者数	人	30	66	118	120
上位目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか) ・東京都民、千葉県民 ・協議会へ参加する生産者 ・旭市民	⑥ 対象指標名	単位	23年度(決算)	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(計画)
		ア 東京都民 + 千葉県民人口	万人	1,929	1,929	1,932	1,951
目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか) ・旭市で生産される様々な花を知り、購入につながる。 ・生産者が営業・販路を拡大するきっかけになる(能力向上) ・花の魅力と活用方法が広がる	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	23年度(決算)	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(計画)
		ア イベントへの参加者数	人	500	550	600	650
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けられるのか 市民と都市住民の交流によって、旭の魅力や十分に発見し・味わってもらうことで、市のイメージアップへ繋げる ・農水産業のみならず市内の観光・商業の活性化へ広げる。	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	23年度(決算)	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(計画)
		ア 農業交流人口 ※後期基本計画P90	千人	101	86	101	101
		イ 観光客入込数	千人	909	1,277	1,310	1,310

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
千葉県第2位の生産量を誇る旭市の花は、切花・鉢花・観葉植物・洋ラン等、多種多様であり様々な可能性を秘めている。この花に特化した交流を展開し、「花のまち旭市」として広くPRを行う。	近年の不況及び輸入品の増加等により、旭市のみならず全国の花の生産量が減少傾向になっている。協議会発足時より市内花卉生産者も減少している。協議会主体となって行っていた交流事業に平成25年度から民間ツアー会社が参入し始めたため、独自で行う必要がなくなった。	開始当初は、主催側の生産者の協力が少ない傾向にあったが、平成22年度からは「旭市花卉生産者協議会」を設置し、これまでバラバラに活動していた生産者が団結し、この不況(花は嗜好品)を乗り切ろうという機運になっている。今後は、花の交流をきっかけに観光・商業等への波及が重要となる。

事務事業名	医療福祉・食・交流の郷づくり事業 花交流事業	課名	農水産課	班名	振興班
-------	---------------------------	----	------	----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の目的は市の施策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 交流人口が増加することにより、花産業のみならず観光業の活性化や消費の拡大に伴い、市民の暮らしの向上につながるものと認識している。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象については、交流事業であることから、都市住民、旭市民を対象することは適切である。意図については、市民でも多くの方が、旭市の花が千葉県第2位の生産量があることを知らないの、市内外に旭市で生産する花の魅力をPRすることは適切である。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 交流事業は民間ツアー会社の参入により事業を会員(生産者)のみで行うこととなった。今後は各種イベント等も事務局が最小限の関わりで行えるような体制にしていきたい。
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 イベントへ回数や内容を見直し、参加者数は年々増加している。近隣市では、実例はないが南房総地区では類似団体があり、比較するとイベント参加者数で劣っている。劣っている原因の1つとしては、旭市では露地での花の生産者が少ないため、花と触れ合う大きなイベントを行うことが現状難しいからである。しかし今後は、道の駅を利用してイベントに開催することで、参加者数を増やすことが可能だと考えられる。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？成果の向上余地はどの程度あるか？	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 オフィス緑化の活動回数を増やさなくとも、対象施設を変えることで、旭の花が目止まる対象者も変わるためPRの幅を広げられると考えられる。また、同様のイベントに毎年参加することで、旭の花の認知の定着につながると考えられる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある (1) 事務事業名：(集客力のある市のイベント) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☒ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他の交流事業にととまらず、市の集客イベント等との連携、メディアや大手旅行会社との連携を広めることにより、さらなる事業の活性化が図れる。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 魅力が落ちない範囲でのイベントメニューやおもてなし内容の見直しによっては経費削減の余地がある。
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 参加対象者との連絡調整・他のイベントへの連携交渉など、細部では行政の比重が多いため、これらを徐々に民間へシフトできれば人件費の削減は可能。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 旭市の花農家の団結により、多種多様な市の花卉をPRしながら都市との交流活動を実施しており、現在もその趣旨に沿って運営をしている。今後は旭の花産業の活性化から始まり、市全体の観光・産業・交流へ広がる発展を目指していきたい。交流事業については、誰でも参加することができるため、公平・公正であり、事業実施団体の旭市花卉生産者協会についても、市内の花卉農家であれば誰でも加入できるため、公平・公正である。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	景気の低迷はもちろん海外からの輸入も含め、今後も国内花産業は厳しい状況が続くと予想されるが、「花産業活性化による旭市の魅力発信」の場として行政からもバックアップして行きたい。事業としては旭市の花卉の特色を活かした都市交流として軌道に乗りつつあるが、見直し余地を改善しながらも、常に新しいメニューを考案していきたい。
② 有効性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
③ 効率性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
④ 公平性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性			(3) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																							
☐ 目的再設定	☒ 行政関与の見直し		<table border="1"><thead><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>					コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持				低下			
								コスト																		
						削減	維持	増加																		
成果	向上	○																								
	維持																									
	低下																									
☒ 事業のやり方改善による成果向上	☒ 事業統廃合・連携(関連事業:集客力のある市のイベント)																									
☒ 事業のやり方改善による事業費削減	☒ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減																									
☐ 受益機会の適正化	☐ 費用負担の適正化																									
☐ 廃止・休止																										
(2) 改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？																										
いつまでに	なにを、どうするのか？																									
① 28年度までに ② 27年度までに	①消費者側からの用途・趣向などの情報収集をおこなう。②開催イベント等をネット配信する。③オフィス緑化の民間施設への実施。④他事業との連携をはかる。⑤運営を民間へシフトする。																									
③ 27年度までに ④ 27年度までに																										
⑤ 28年度までに																										
(4) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																										
①より上の発展を目指すには、生産者としてのレベルを上回る研究が必要																										
②事務も含めた運営を民間へシフトするための方策と協議会の自立促進(意識改革)																										